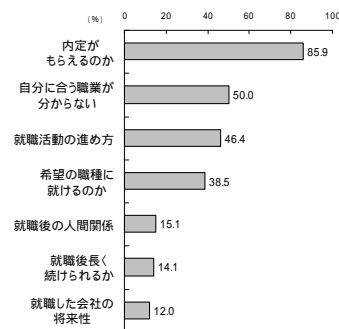
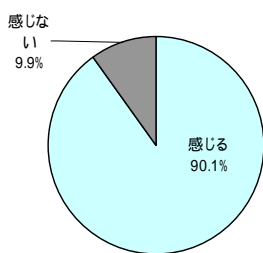


# 1. 就職に対する意識

## (1) 就職への不安

- ・ 就職に不安を感じると回答した人が全体の 90.1%を占め、多くの学生が不安を感じていることが分かった。
- ・ 不安を感じる理由では、「内定がもらえるのか」(85.9%)が最も多かった。次いで「自分に合う職業が分からない」(50.0%)、「就職活動の進め方」(46.4%)となった。身近な先輩などから就職戦線の厳しさを聞いていることや、就職内定率の低さなどから多くの学生が内定をもらえるかどうか不安を抱いているのだろう。「自分に合う職業が分からない」「就職活動の進め方」については、回答者の8割近くがまだ就職活動を始めていない3回生であったことが影響したと思われる。

図表-1 就職に不安を感じるか (n=213) 図表-2 不安を感じる点 (n=192、複数回答)

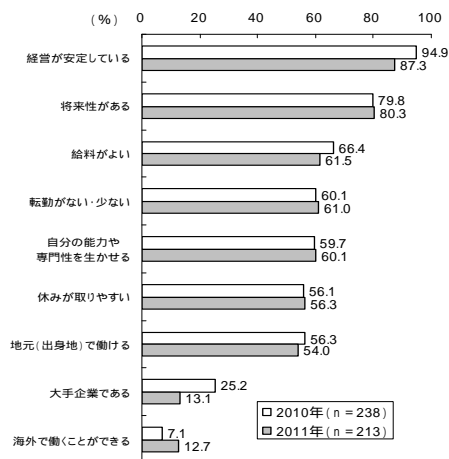


## (2) 就職の際に重視すること

- ・ 最も多かったのは「経営が安定している」(87.3%)、次いで「将来性がある」(80.3%)、「給料がよい」(61.5%)の順となった。
- ・ 前回6位であった「地元(出身地)で働ける」(54.0%)は7位に順位を下げた。学生は内定をもらうことを第一に考えており、地元こだわらなくなりつつあるのだろう。しかし、依然半数以上が地元での就職を重視している。

図表-3 就職する際に重視すること

(n=213、複数回答)



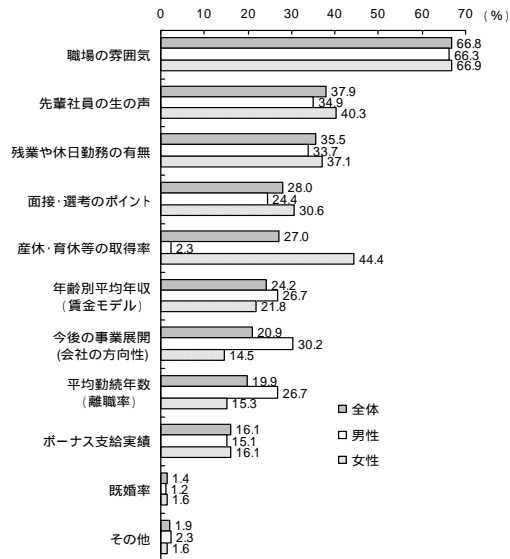
< 過去調査との比較 >

	2009年	2010年	2011年
1	経営が安定している	経営が安定している	経営が安定している
2	給料がよい	将来性がある	将来性がある
3	地元(出身地)で働ける	給料がよい	給料がよい
⋮	⋮	⋮	⋮
6	将来性がある	地元(出身地)で働ける	休みがとりやすい
7	社会に貢献できる	休みがとりやすい	地元(出身地)で働ける

(3) 各企業が公開している情報以外に就職活動で知りたい情報

- ・ 最も多かったのは、「職場の雰囲気」(66.8%)、次いで「先輩社員の生の声」(37.9%)、「残業や休日勤務の有無」(35.5%)となった。学生は、安定性や将来性に加えて、職場の雰囲気などの職場環境が気になるようである。
- ・ 男女別に見ると、女性は「産休・育休等の取得率」(44.4%)への関心が高いことが分かった。

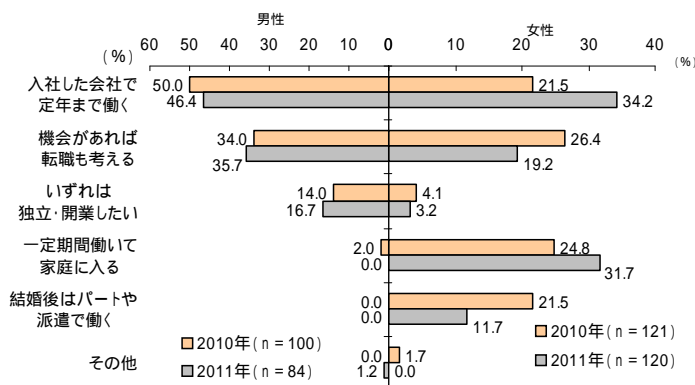
図表-4 就職活動で知りたい情報 (n=211、複数回答)



2. 就職後の働き方

- ・ 男性は、「入社した会社で定年まで働く」が46.4%、「機会があれば転職も考える」が35.7%となった。女性では、「入社した会社で定年まで働く」が前回調査より12.7ポイント増加し、34.2%となった半面、「機会があれば転職を考える」、「結婚後はパートや派遣で働く」は減少した。男性の2人に1人、女性も3人に1人は「入社した会社で定年まで働く」と回答しており、女性の仕事に対する意識が男性に近づきつつあると思われる。
- ・ 一方、女性の「一定期間働いて家庭に入る」との回答が6.9ポイント増加して31.7%となり、定年まで正社員として働くことを希望する女性と一定期間働いて家庭に入りたくない女性との二極化が進んでいるようだ。

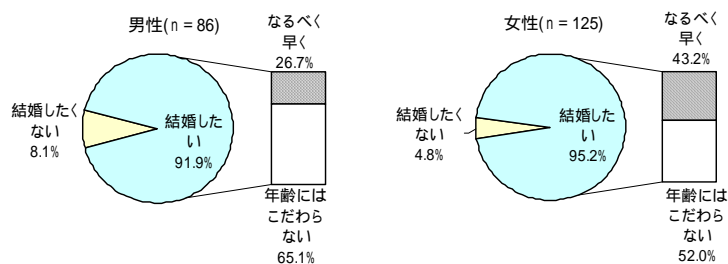
図表-5 就職後の働き方 (性別)



### 3. 結婚に対する意識

- ・ 結婚したいとの回答が 93.8% となり、婚期について尋ねると、「なるべく早く」との回答は男性が 26.7%、女性が 43.2% と、女性の方が早期の結婚を望んでいる人が多いことが分かった。一方、「結婚したくない」との回答は、6.2% にとどまり、「非婚化」の傾向はうかがえなかった。
- ・ 「結婚したくない」理由を聞いたところ、「ひとりでいるのが楽」「自由時間が減少する」という回答が多かった。

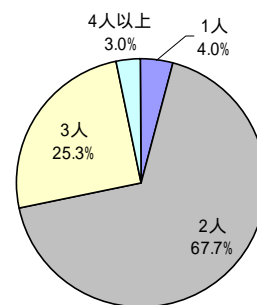
図表-6 結婚願望（男女別）



### 4. 子どもに対する意識

・ 結婚したいと回答した人の全員が「子どもが欲しい」と回答した。なおかつ、「2人以上欲しい」と回答した人は、96% を占めた。学生は「結婚をすれば、子どもは欲しい」と考えているようだ。少子化の進行は、若者の意識とは関係なく、社会環境が子どもを産みにくい状況を作り出した結果かもしれない。

図表-7 欲しい子どもの人数 (n = 198)



### 5. まとめ

今回のアンケート結果から、学生が就職先を選ぶ場合に、安定性や将来性はもちろん重視するが、多くの学生が職場の雰囲気といった情報も企業選びの参考にしたいと考えていることが分かった。企業は人材獲得や定着化のために、このような学生の要望を考慮してはどうか。

結婚や出産については、学生はかなり前向きに考えているようだ。しかしながら、現実には晩婚化や少子化が進んでいる。若者だけの問題としてとらえるのではなく、社会全体が結婚を促すことや、企業や行政が出産・育児に対する環境整備を進めていくことが必要なのではないかと感じる。

( 國遠 知可 )

### 回答者属性

大学	愛媛大学 59.2% 松山大学 40.8%	性別	男性 41.0% 女性 59.0%
学年	3 回生 77.8% 4 回生 20.8% その他 1.4%	出身地	愛媛県内 66.5% 四国 3 県 8.5% 中国・九州 18.4% 関西 2.4% 関東 0.9% その他 3.3%